

「似島スポーツクラブ」の活動を見学しました

広島市南区似島で2024年11月3日（日・祝）に開催されたサッカー大会を見学してきました（主催：似島スポーツクラブ（似島SC）*）。



前日まで心配していた雨があがり、快晴の下、サッカー大会「似島 Enjoy football U-10」が、広島市南区似島のユーハイム似島歓迎交流センター（旧広島市似島臨海少年自然の家）を会場に開催されました。似島は、広島湾に浮かぶ島で、宇品港からわずか3kmの距離、フェリーに乗船し約20分で到着する広島市街地からも程近い場所に位置しています。自然豊かで歴史をたどると戦争中の遺構も残っており、平和学習の場としての役割もあるようです。また、日本におけるバームクーヘン発祥の地としても知られています。

当日は、広島市内で活動されている12チームが参加、選手、保護者、大会ボランティア含め、約300名が集結し、熱戦が繰り広げられました。コーチのみならず応援に来られている保護者からも「いいよ！いいよ！いいプレー！ナイスー！！」「気持ち切り替えていこー！」「ガンバレー！」と熱い声援が送られます。



試合が終わると、選手たちは、喜びをあらわにする子、悔し涙する子、冷静に試合を振り返る子、いろいろな思いを胸に、頑張っている姿を目の当たりにし、スポーツを通してそれぞれが成長しているのだと思うと目頭が熱くなりました。試合を終了したチームは、円陣を組んで振り返りを行っていました。あるチームの指導者は負けてしょげているメンバーに「誰一人投げ出すことなく9人で最後まで戦い抜いたね。すごいよ！良かったことを探してみよう」の声掛けに「シュートができた」「最後まで頑張った」「みんなで声をかけあった」

「負けて残念だけど楽しかった」などと答える選手たち。次につながる温かい指導を垣間見ることができました。

3位までのチームはトロフィが、4位敢闘賞のチームにはバームクーヘンが贈られ、たたえられました。そして各チーム試合が終わると、大会事務局のテントの前に行き、「今日一日ありがとうございました！」と全員で挨拶しお辞儀、そしてコートに向かってお辞儀、どのチームも感謝の気持ちを表していることに感心しました。



以前はよく開催されていた似島でのサッカー大会ですが、似島 SC 在籍部員だけでは学年ごとの人数が揃わないために無理が生じ、既存のレギュレーションで対外試合を組むことが少なくなったそうです。それでも日々のサッカーの練習や OB・OG 達の交流を通して、子ども達より「試合をしてみたい」、「自分の力を試したい」、「いろんな人と交流してみたい」、という前向きな声が発せられ、その声に後押しされ、当該クラブ発信の交流会にすれば、同じような状況にある小規模の団体等とも活動が楽しめるのではないかと考えられ新たなチャレンジに至ったそうです。コロナ禍収束後、彼らの思いを形にするにはどうすればよいか検討された結果、いきなりサッカーの試合をするのはハードルが高いので、年齢性別を問わず誰でも安全安心に楽しめるウオーキングサッカーの大会をしてはどうかとの声があがり、工夫しながら再開されたそうです。また、大会運営にはボランティアの力が欠かせません。似島 SC の 20 代の OB・OG が帰省して参加しておられました。

また、サイドアクティビティとしてユーハイム似島歓迎交流センターによる似島ならではの「バウムクーヘン体験」や、Nino(にのしま自然体験クラブ)の協力による「焼きマシュマロ体験」が行われていました。選手の兄弟姉妹が試合応援の待ち時間に参加したり、ゲームの合間や終了後に選手の皆さんが楽しんだり、先ほどまで対戦相手だった選手もみんなで炭台を囲み、仲良く楽しそうにマシュマロを焼いている姿にほのぼのとしました。



参加された保護者の方からは、「このような大会を開催してもらって嬉しい」「似島は良いところなので、また来たい」、また、コーチの方からは「競技だけでなく、楽しく趣向を凝らしたサイドメニューも準備されるなど、充実した一日を過ごすことができた」「競技だけだと厳しく指導することが多くなりピリピリした空気が漂うが、今日は、おかげ様で楽しく試合に臨むことができた」などの感想が寄せられました。



聞くところによると、似島はサッカーが盛んに行われていた歴史があるとのことで、この地で大会が開催されることも、とても意義深いことと感じました。(本郷)

*似島スポーツクラブインスタグラム：https://www.instagram.com/ninoshima_sc/